



附属小のマスコット・キャラクターが決まりました！平和で一人一人が輝く学校という願いが込められています！

令和5年度 附属小学校だより

# スマイル<sup>3</sup>ふぞく



第5号 令和5年10月2日（月） 校長 古野 祐一

## 「躍動」の9・10月！

夏休みに蓄えた様々な感動経験のパワーを、暮らしに活かしていく「躍動の9・10月」。

9月には、総勢103名の教育実習生が、4週間の現場実習を行い研究授業や担任業務、子供との関りを深めていきました。最終日は、どのクラスでも涙で別れを惜しむ姿があり、感動に包まれる恒例の一日となりました。大学3年の実習生は、教職を目指す志を更に高め、来年の教員採用試験に臨みます。10月13日（金）からは、大学4年生が2週間の副実習に臨みます。再始動する躍動の10月も楽しみです。

実習が終わった翌日、5年生は五島で二泊三日の臨海学校に向かいました。初めて実施した2日間の民泊、カヌー体験やトレッキングなど、長崎の離島の魅力を存分に味わってきました。4年生は、10月に諫早少年自然の家で行う一泊二日の野外活動。6年生は、11月に広島、大阪方面へ向かう二泊三日の修学旅行で見聞を広げます。附属小ならではの、自律に向かう宿泊体験学習が続いていきます。（詳細は裏面の橋田教頭コラムにて）



1か月を共に過ごした実習生と涙の別れ。



五島でカヌー体験をする5年生。

## 環境が整っています！

北斗の丘再生プロジェクトの一環で、走り幅跳び用の砂場が完成しました。場所は運動場倉庫（附属中側）の前です。ブランコを設置する際、古い砂場を無くしたかわりに、体育や小体会練習で複数人が同時に練習できるような、充実した走り幅跳びコートを設置していただきました。さっそく6年生が小体会に向けて練習で活用しています。子どもたちが遊びや学びに向かう環境が、また一つ向上できたのも、育友会の皆様の御理解御協力のおかげです。

体育館の改修工事も、本格的に始まっています。完成は、令和6年2月14日を予定しています。改修に加えて、質の高い体育授業のために、使用する教材等も全て新調し揃えていく準備を進めています。締めくくりの行事「6年生を送る会」や「卒業式」、「修了式」等で、新しい体育館のお披露目ができると思いますので御期待ください。

良い環境が、安心安全に子供たちを育てていきます。育友会の皆様とともに、立ち止まることなく学校改革を進めてまいります。



本格的に始まった体育館の改修工事。



新設された走り幅跳び用の砂場。

※裏面に続きます！

# 北斗の感動

5年生が臨海学校で五島に行ってきました。4年生は10月に野外活動で諫早へ、6年生は、11月に修学旅行で広島・大阪に行きます。3学年で宿泊行事を実施するのも本校の特色です。

宿泊行事のねらいは、よりよい人間関係を築くこと、公衆道徳の体験を積むことにあります。本校では、これに加え、学年目標の姿を学校の外で実現するねらいもあります。

今回の臨海学校では、学年目標「WORLD」を追求するために、テーマを「世界に浸り 広げる自分」とし、五島でしか体験できないことに挑戦し、新たな自分や仲間に気づくことをねらいとしました。そのために、2日間の宿泊を民泊とし、五島の自然だけでなく、五島の人々と共に過ごす体験を設定しました。

このようなねらいの中、臨海学校での5年生の様子はどうだったのでしょうか。

## 五島のみなさんを笑顔に

出発前、野口教諭が子どもに掛けた言葉です。「きっとこの三日間、みなさんは五島のみなさんからたくさん笑顔をいただきます。だから、みなさんが五島のみなさんを笑顔にするのです。」

私は、3日間の引率の中で、五島の方のたくさん笑顔に出会いました。

「お盆とお正月が一緒に来たみたいで、本当にかわいい」と語ってくださった民泊先の方。

ビーチコーミングで造形遊びをしている子どもを見て「夢中になってくれる心が嬉しい」と喜ばれるインストラクター。

バラモン風を見た子どもが「昨日泊まった、五島のおじいちゃんの家にもあった」と語る姿を笑顔で頷かれる歴史博物館の方。

五島の皆様に、子どもの成長をまた一歩前へ進めていただいた3日間でした。 **教頭 橋田 晶拓**

## 未来で輝く北斗の子

「自分にできることは何か」を考える

藤子不二雄の漫画「パーマン」を御存知でしょうか。その作品の中に「コピーロボット」という道具が登場します。鼻の赤いボタンを押すと、押した人がコピーされ、自分がもう一人できるのです。先週の臨海学校では橋田教頭と松尾教務が引率で不在だったため、一人で3台のデスクを行ったり来たりしていました。まさに「コピーロボットがほしい!」と思ったものでした。

さて、その3日間で教頭の業務、教務主任の業務に触れる中で、改めて「役割」というものについて考えさせられました。社会では誰しも、各々の役割があります。では、その役割をよりよく果たし、世の中を明るくするために必要なことは何でしょうか。それは、「役割の自覚」と「自分の能力や適性の認識」だと考えます。

今でもまだ昼休みの運動場は暑さが厳しい日もあり、熱中症等を警戒しています。そこで立ち上がったのが、保健委員会の子どもたちです。保健委員として全校の健康安全を守るためにできることを考えた末、昼休みに自分たちで休憩や水分補給を促す放送を入れる活動を始めました。おかげで、この暑かった時季を、なんとか乗り越えることができそうです。

この例のように、それぞれの立場・役割の中で、「自分にできることは何か」と考え続ける北斗の子を様々な場面で育てていきます。

**主幹教諭 才木 崇史**

## 教えから学びへ

即興的対応

本校では、従来「展開案」というものを作成し、授業に臨んでいます。これは、45分間の授業の中での、教師と子どものやりとりを台本のようにまとめたものです。展開案を作成する過程で、深い教材理解や学習課題づくり等が可能となります。これなくして、授業はできません。しかし、一度授業が始まってしまえば、「展開案を捨てる」ことも重要となります。学びにおいて大切なことは、教師の敷いたレール通りの結果にスムーズにたどり着かせることではなく、子ども一人ひとりが思考し、活動し、探究することだからです。

先日、教育実習生による第2学年算数科「繰り下がりのある筆算」の授業を参観しました。一人ひとりが解決に向かう中で、ある子どものノートに、次のような記述を見付けました。

$\begin{array}{r} 137 \\ - 75 \\ \hline 62 \end{array}$	一の位: $7-5=2$
	十の位: $7-3=4$
	$10-4=6$
	※13-7を10-(7-3)と考えている

教科書に掲載されていない考えであり、実習生にとっても想定外の考えだったのでしょう。この授業では、全体で取り上げられることはありませんでした。しかし、その発想の面白さ、試行錯誤する姿勢は、大きな価値があります。意味の理解には時間がかかりそうですが、学びが飛躍的に深まる可能性もあります。即興的な対応が求められる瞬間であり、子どもの多様な学びを引き出す醍醐味が、ここにあります。

**教務主任 松尾 勇哉**